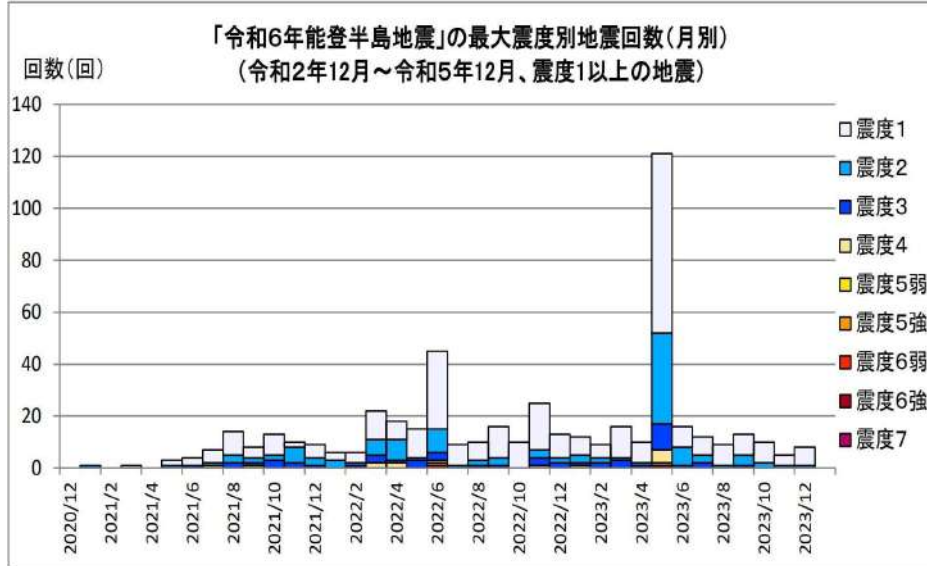




## 今日お話ししたいこと

- 1 奥能登群発地震から能登半島地震へ
- 2 珠洲原発計画と地震問題
- 3 志賀原発は今度こそ廃炉へ
  - ・周囲には大断層
  - ・避難計画は破綻した

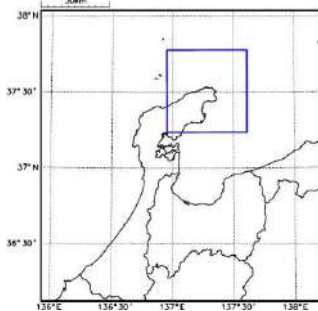
## 3年前から続く群発地震



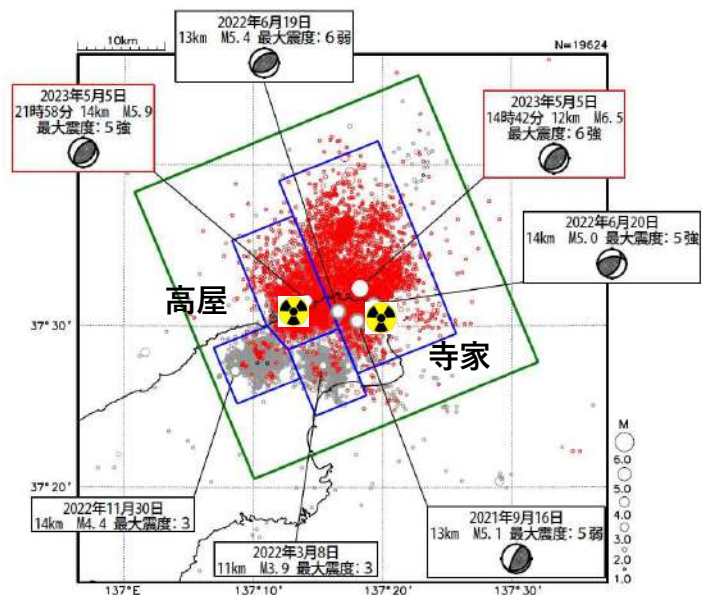
23.6.9 地震調査研究推進本部「R6年能登半島地震の評価」より

## 珠洲原発予定地 高屋・寺家は群発地震の巣の中

地下の流体が地震を引き起こす



震央分布図  
2020年12月1日~2023年5月31日  
深さ0~25km、M $\geq$ 1.0



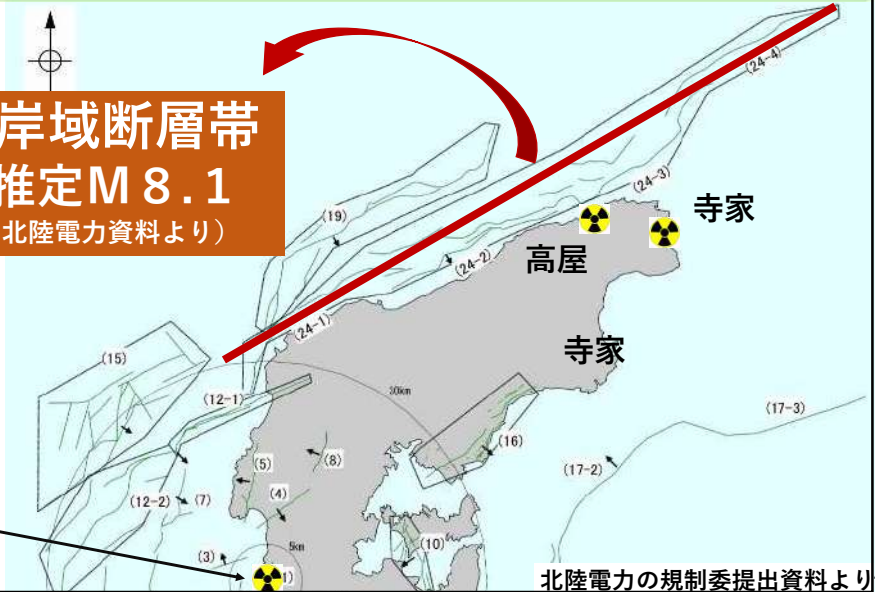
## さらに強い揺れに警戒を！

能登半島北部沿岸域断層帯  
長さ 96 km 推定M8.1

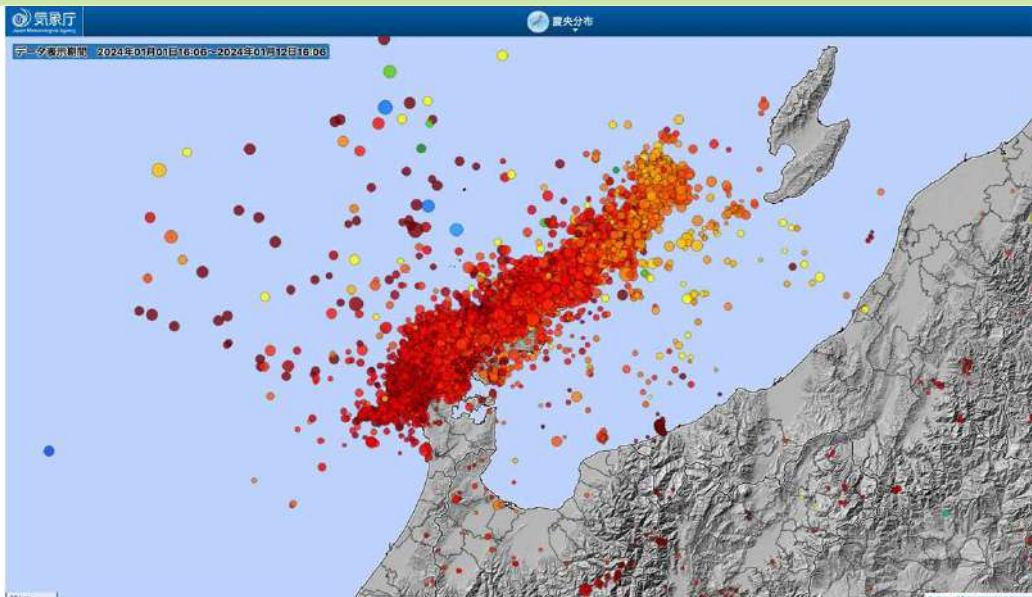
(2023.5.12規制委へ提出した北陸電力資料より)

珠洲原発の計画が  
あった当時は活断層  
の存在すら認めず

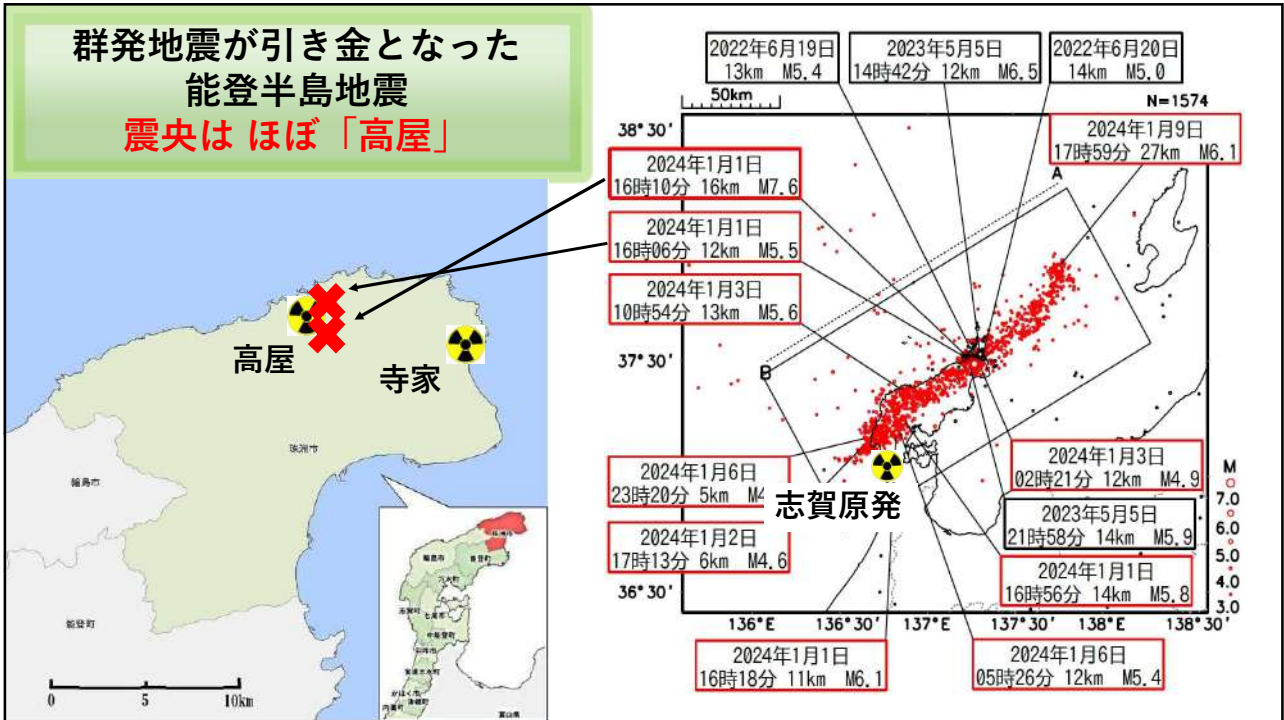
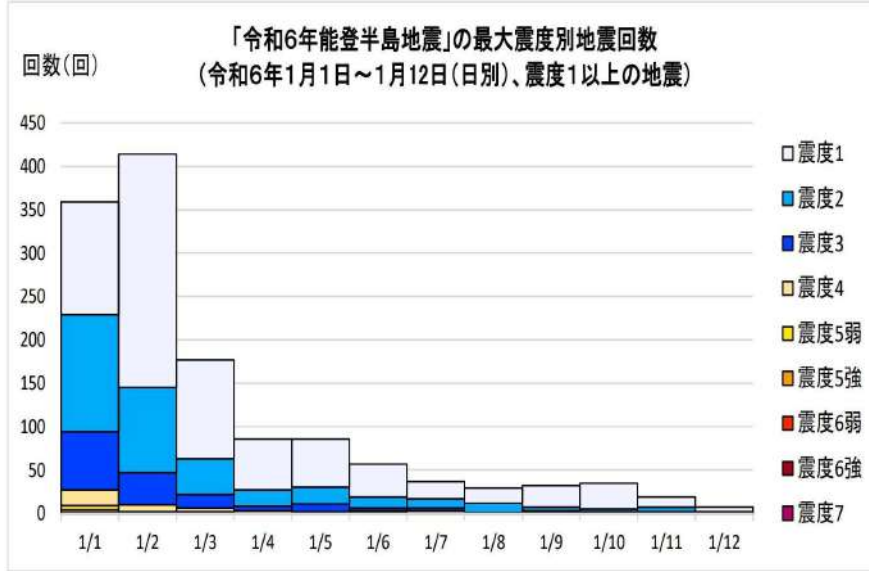
志賀原発



## 2024.1.1 R6能登半島地震発生



# M7.6 最大震度7の揺れ



## 高屋、寺家はこんなところ

高屋（関西電力の予定地）  
集落70戸（当時）全戸移転



寺家（中部電力の予定地）  
塩津上野地区42戸（当時）全戸移転

## 珠洲原発計画

関西電力、中部電力、北陸電力の**3電力共同開発**  
当面100万kw級2基建設 将来的には**1000万kw構想**も  
関電は高屋、中電は寺家、北電は地元の調整役を担う

1975年 市議会全員協議会が国、県に適地可否調査を要望する  
**地元誘致型**で「珠洲方式」と呼ばれる

1989年 市長選と、その後の関電の高屋での立地可能性調査に  
対する阻止行動から**反対運動が一気に拡大**

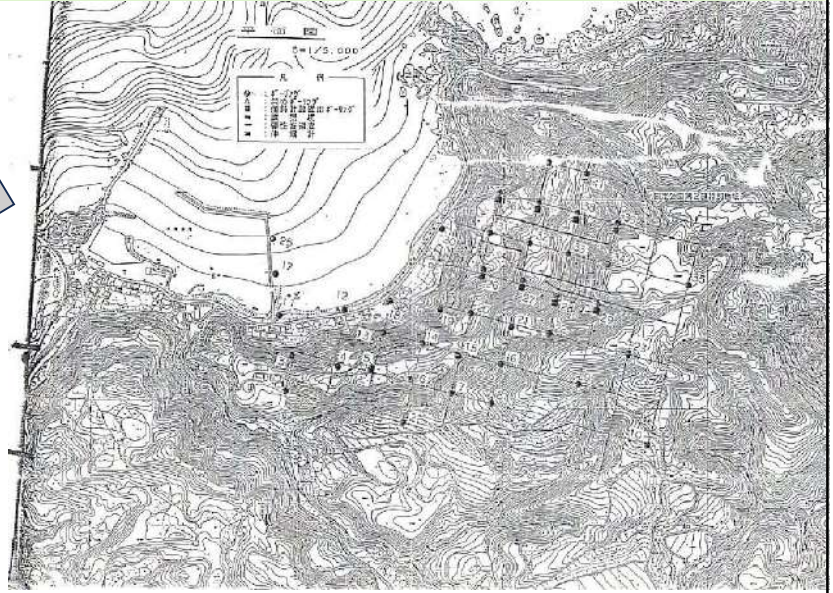
以後、市長選や県議選、市議選等で原発の賛否を巡る激戦が繰り広  
げられる。一方、共有地運動の展開で**立地は年々困難**になっていく。

2003年 関電、中電、北電の3電力社長が石川県庁と珠洲市役  
所を訪れ「計画の凍結＝事実上の**撤退**」を表明

## 立地可能性調査と阻止行動



ボーリングや弾性波探査等を行い「**強固な岩盤**」であることを確認するための調査



## 立地可能性調査と阻止行動



高屋現地で  
30日間の  
阻止行動



市役所会議室  
で40日間の  
座り込み



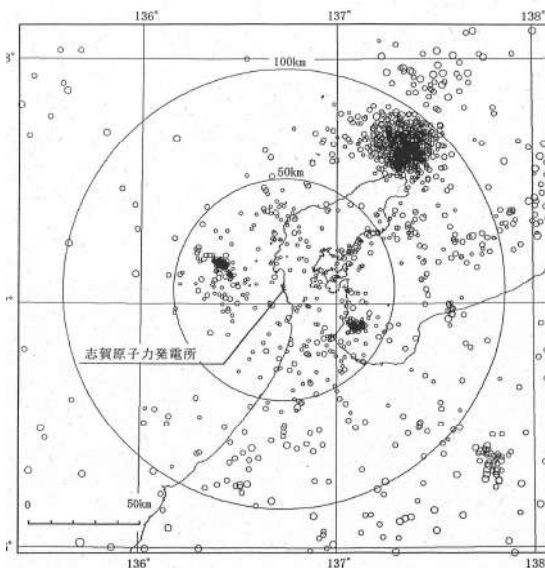
## 「地震と原発」も大きな争点

1993年2月7日

高屋での立地可能性調査再開か  
珠洲原発の白紙撤回か

珠洲原発の行方を左右する**市長選前**に  
**能登半島沖地震発生**

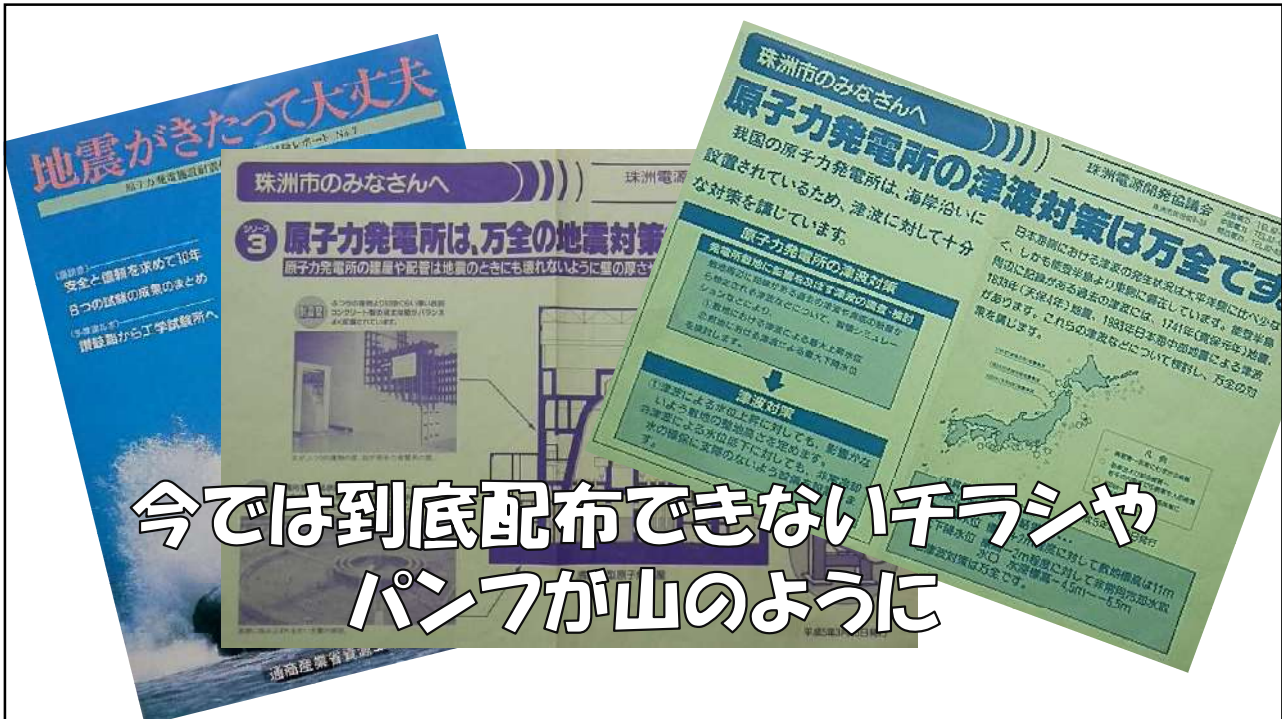
## 能登半島沖地震(1993年2月7日 M6.6)



- ・負傷者 : 29名
- ・住宅全壊 : 1棟
- ・住宅半壊 : 20棟
- ・一部破損 : 1棟
- ・道路被害 : 142箇所
- ・水道断水 : 2355箇所 など

⇒ 被害は珠洲市に集中

震度	都道府県	観測所
5	石川県	輪島
	石川県	金沢
4	富山県	富山・高岡
	新潟県	高田
3	新潟県	新潟・相川
	福井県	福井・敦賀
	長野県	長野・諏訪
	岐阜県	高山
	愛知県	名古屋
	滋賀県	彦根



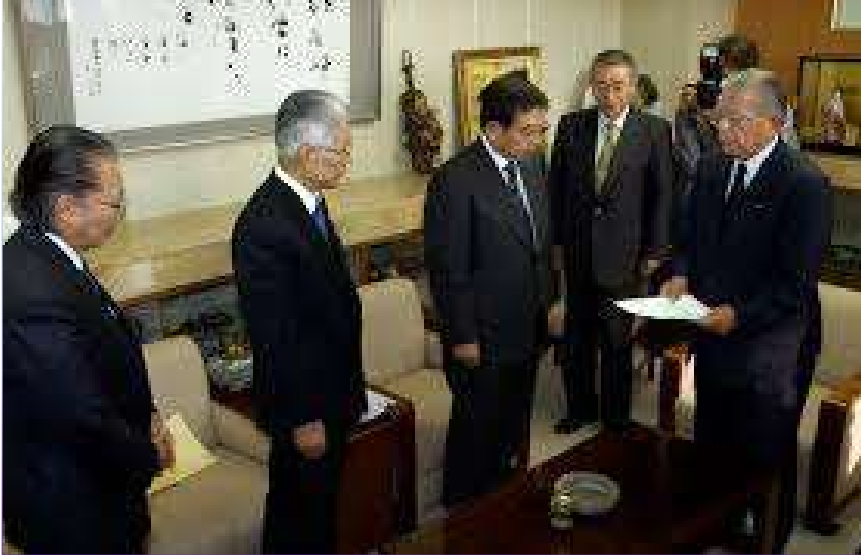
## 「不正選挙」で推進の現職当選

電力会社は断層の調査をすることもなく  
根拠のない安全キャンペーンを展開し  
**不正選挙**で現職の当選を後押し

1996年5月  
最高裁で選挙無効確定



## 2003年12月5日 3電力が撤退表明



### 撤退の理由

- ・ 電力市場の自由化
- ・ 電力需要の低迷
- ・ 地元事情

## 反対派の勝因

### 原発推進の「住民合意」を阻止

※ 1994年「住民合意を最大限尊重」とする谷本知事誕生

1. 関係漁協の同意
2. 用地買収の状況
3. 関係団体の動向
4. 反対運動の状況
5. 選挙の結果

等を総合的に判断する

市長選、市議選、県議選、知事選、国政選挙で  
**原発反対の民意**を示し続ける

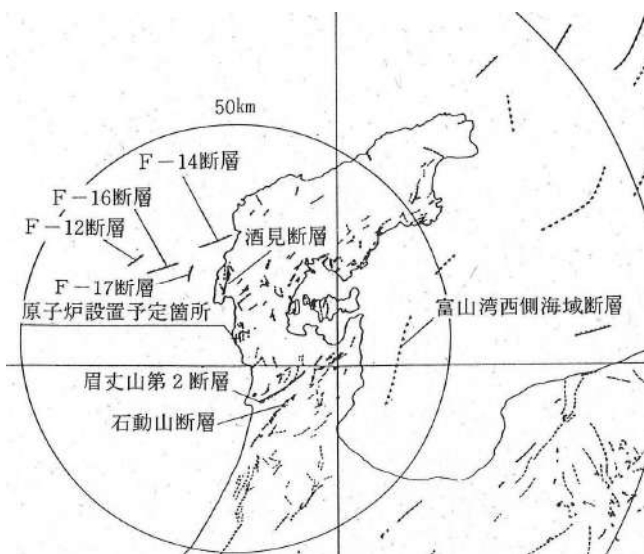
**共有地運動**を展開。高屋、寺家の予定地やその周辺で  
 数十か所で共有地登記を行い、用地買収を阻止

## 珠洲に原発がなくよかった



高屋だけでなく寺家でも地盤の隆起・陸化

## 1993年 志賀原発1号機 営業運転開始

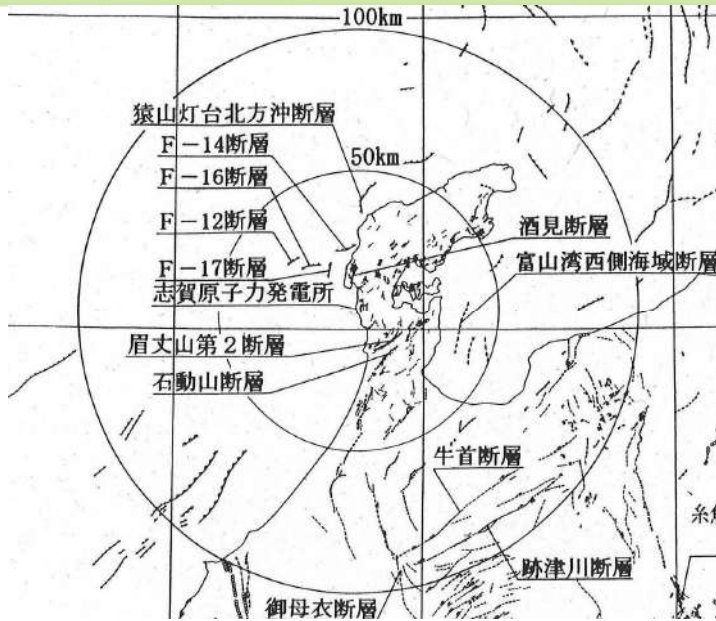


設置許可申請書 添付資料より  
(1987年1月提出)

短い  
少ない  
・特に原発周辺  
・特に海域

能登半島北部沿岸域には  
活断層なし

## 2006年 志賀2号機運転開始直後に差止判決



2006年3月24日  
金沢地裁（井戸謙一裁判長）

- ・地震想定が過小
- ・原発の多重防護が機能するとは思えない
- ・周辺住民が被ばくする可能性あり



商業用原発初の運転差止め判決



国は耐震指針見直しへ

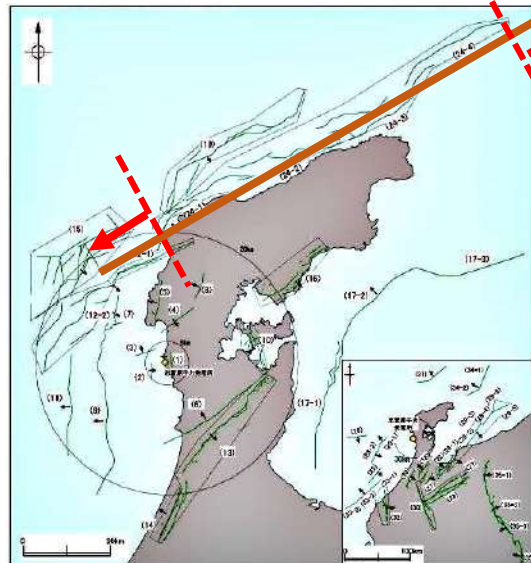
2号機設置許可申請書 添付書類より

## 笹波沖断層帯(東部)? + 能登半島北部沿岸域断層帯 + 「NT2・NT3」?

北陸電力の評価を大きく上回る  
**150km**の断層が動いた!

西側：北電は笹波沖断層帯との  
連動を否定してきた

東側：規制委はNT2-NT3との  
連動の検討指示すらせず



# 志賀原発に次の大地震は来ないのか？！

笹波沖断層帯 M7.6

海士岬沖断層帯 M6.6

羽咋沖東撓曲 M6.6

碁盤島沖断層 M6.0

兜岩沖断層 M5.8

酒見断層 M6.6

富来川南岸断層 M6.4

志賀原発 福浦断層 M5.7

眉上山第二断層 M7.1

邑知潟南縁断層帯 M7.6

周辺断層との連動あれば、さらに巨大な地震に！

富山湾西岸域断層 M8.0

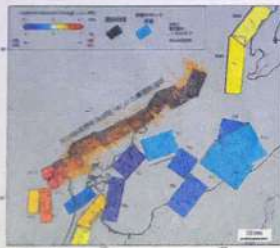
魚津沖断層帯と能登半島東方沖の断層 M8.3

牛首断層 M8.0

数字は北陸電力の規制委提出資料より

# 地震リスク高まる

## 能登震源域の断層 地震リスク高まる変化



能登半島地震が起きた後、震源域の両端にあたる能登半島西部や新潟・佐渡沖の断層で地震が発生しやすくなる変化が起きていることを、東北大学の速田晋次教授（地震地質学）らが解析で明らかにした。西端部分には、北陸電力志賀原発のある石川県志賀町沖合も含まれているといい、さらなる地震活動や津波への警戒を呼びかけている。

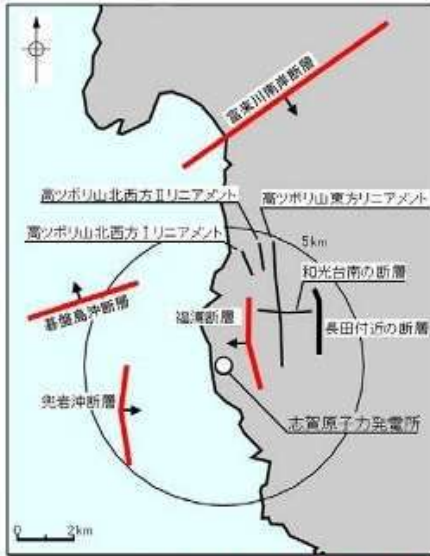
東北大教授らが解析

### 両端の志賀沖周辺と佐渡島近く「注意を」

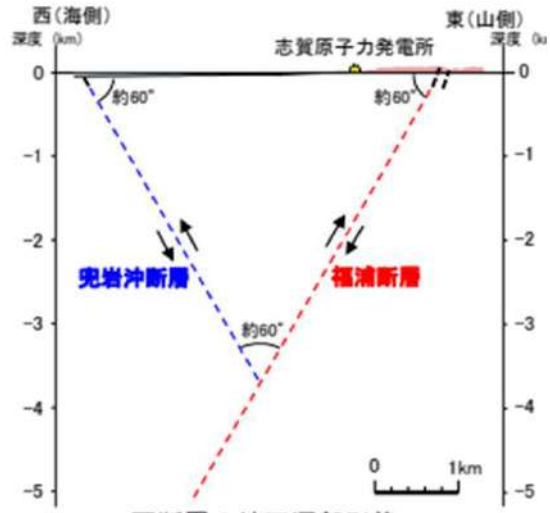
9日に開かれた東北大学の能登半島地震調査委員会では発表された。今回の地震では気象庁などの分析で、能登半島西端から新潟・佐渡島近くの日本海まで長さ100キロ程度の断層が破壊されたとみられている。一方で、能登半島の北方沖では、今回の地震に付随して複数の海底活断層が連なって存在することが知られていた。速田さんは今回の地震で、こうした複数の活断層が連動して活動した可能性があると指摘。1995年の阪神・淡路大震災や2011年の東日本大震災など、近代の国内の内陸型地震と比較しても、最大級の規模の地震になったと説明した。そのうえで、今回の大地震の結果、震源域周辺の地上や海底にある他の断層が、能登半島西部や新潟・佐渡沖の断層に比べて、地震の発生しやすくなる力がかかっているという。志賀町など、今回の地震後に余震活動が周辺で起きている断層もあり、さらなる地震への注意が必要になるとした。速田さんは、1次の地震がいつ起きるかはわからないが、地震が起きやすくなると考え、地震や津波への備えを進めてほしいと訴えている。

朝日新聞 24.1.10

## こんなリスクも —近傍の活断層—



— 断層等 (赤線は後期更新世以降の活動が否定できないと評価したもの)



両断層の地下深部形状  
(福浦断層が兜岩沖断層を切っている場合)

北陸電力の規制委提出資料より

## 能登半島地震による志賀原発への影響

1号機起動変圧器からの油漏れ及び放圧板の動作、噴霧消火設備の起動	油漏れ量+雨水、噴霧消火水合計約 4,200 リットル
2号機主変圧器からの油漏れ及び噴霧消火設備の起動、放圧板の動作	油漏れ量+雨水、噴霧消火水合計約 24,600 リットル
1号機使用済燃料貯蔵プール水の飛散	約 95 リットル、放射エネルギーは約 17,100 Bq
2号機使用済燃料貯蔵プール水の飛散	約 326 リットル、放射エネルギーは約 4,600Bq
1号機タービン補機冷却水系サージタンクの水位低下	換気空調系の冷却コイルから冷却水漏れ
2号機低圧タービンにおける「伸び差大」警報発生	地震による揺れによるもの。タービン内部検査は今後実施
1号機放水槽防潮壁の傾き	鋼製防潮壁(高さ4m)の南側壁が、数 cm 程度傾いた
1、2号機 廃棄物処理建屋エキスパンションジョイントシールカバーの脱落	ゴム製のシール部材を覆う金属製のカバーが脱落
1号機 純水タンク水位低下	毎分7.3 リットル程度(438 リットル/時)の水位の低下。原因調査中
2号機 使用済燃料貯蔵プール落下物	検査装置の一部が落下
2号機 励磁電源変圧器の油漏れ	変圧器の絶縁油が約100リットル漏れ
2号取水槽内の海水面の上昇	取水槽内の海水面が通常より約3メートル上昇

原子力資料情報室作成

## 避難計画は破綻

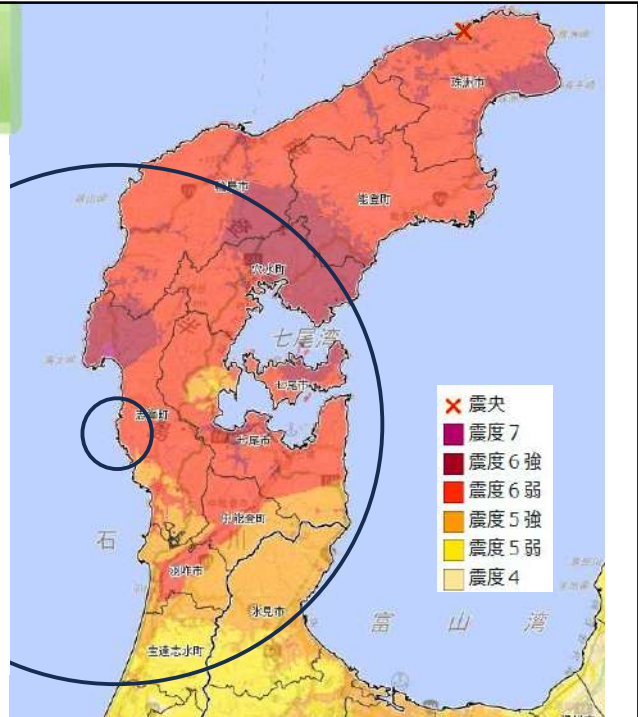
大規模・多数の道路損壊で避難できず

津波、海岸隆起で海路の避難できず

孤立集落住民はヘリでも救出できず

倒壊住宅多数で屋内退避できず

モニタリングポスト18か所欠測  
可搬型MPもすぐに設置できず  
避難判断に影響



## 最後の警告 志賀原発は廃炉に

「珠洲になくてよかった」「志賀は止まっていたよかった」



「志賀は廃炉にする！」 「脱原発社会を実現する！」